扨テ斯カル美事ナ收穫ヲ見ル爲ニハ勿論其丈ノ研究ト準備ガ必要デアル。ト云ツテ專門外ノ筆者ガソノ具體法ヲ記サントスルノデハナイ。唯前記競作地デハ元靜岡縣農會技師丸山方作氏ノ指導ヲ受ケ氏ノ研究ニナル改良栽培法ニヨツタモノデアルコトヲ紹介スルニトヾメル。寫眞第2圖ハ苗ヲ本圃ニ挿シテカラ10日目ニ於ケル發根狀態デアル。苗ノ優秀ナコトハ一見シテモ判ル通リデ實ニ美事ナ發育振リヲ示シテ居ル。丸山式ニヨルト苗ハ長サ1尺餘リ、重量ニシテ1本10匁位ノモノヲ選ブト云フガ、是ガ同式ノ第一特色デアル。斯カル苗ハ從來ノ一般法ニ比シ數倍ニ達スル目方ヲ有シテ居ル。第3圖ハ挿苗後27日目ノ發育振リデ、莖ニハ既ニ數本ノ枝ヲ生ジ、又根モ夫々肥厚ヲ始メ塊根形成ノ初期ヲ示シテ居ル。第2, 3圖共ニ背景ノ黑紙ハ地下部ヲ現ハシ、從ツテ苗ハ地表下約1寸ノ位置ニ水平ニ埋メラレ、先端ノミ地上ニ現ハレル樣ナ挿苗法ガ行ハレテ居ルコトニ注意サレ度イ。第4圖ハ前圖ヲ撮影後、同一株ヲ原圃場カラ凡ソ7里距ツタ畑ニ移植シ、約4ケ月ノ後採集シテ撮影シタモノデアル。第3圖ト比較シテ觀ルト塊根發育ノ經過ガ明カニ判リ、甚ダ興味ガ深イ。

寫眞ノ說明ハ簡單乍ラ以上デ終ルガ、コノ寫眞ヲ見テ自宅ノ庭ニ甘諸ノ一坪栽培ヲ試ミ、坪當リ10貫餘リモ作ツテヤラウ等ト考ヘラレタ讀者ハ丸山氏ノ御指導ヲ受ケラレテハ如何。但シ筆者ニハ丸山式ガ最良ノ甘諸栽培法デアルカドウカハ判ラナイ。唯同氏ハ氏ノ改良法ニヨツテ甘諸收穫ヲ從來ノ3倍ニ迄引キ上ゲ、若シ2倍ヲ目標トスルナラバ何人ニモ容易デアルト言ツテ居ラレルコトヲ附記シテ置ク。因ニ丸山氏ハ現在靜岡縣ノ大日本報德社講師トシテ農事改良ニ沒頭サレテ居ル。終リニコノ有益ナ寫眞ヲ紹介サレタル貴族院議員河井彌八氏ニ深謝スル。

○くろはなびらたけニヨル新中毒例(今關六也)

昨年ノ5月頃鹿兒島縣伊集院中學校ノ土井美夫氏カラ同地方ニ起ツタ未知ノ菌中毒ノ事實ニ關スル報知ヲ受ケ、且ソノ毒菌ノ標本ヲ送付サレ種名ノ鑑定ヲ乞ハレタ。該菌ハ鏡檢ノ結果 *Bulgaria* ニ屬スルモノデアツタガ、更ニ是ヲ小林義雄氏ニ御訊ネシタ處同氏ガ植物學雜誌53卷628號ニ新種トシテ發表サレタくろはなびらたけ(*Bulgaria frondosa* Y. Kobayasi)ニ他ナラヌコトヲ知リ、直チニソノ旨土井氏ニ返事シタ。折返シ同氏ヨリ伊集院町ノ醫師デ同中毒患者ヲ診察セル佐伯新吉氏ノ詳シイ臨床手記ガ送付サレタ。依テ同氏ノ手記ニ基キコノ珍ラシイ菌中毒ノ新事實ヲ報告シタイ。云フ迄モ無ク本菌ニヨル中毒ハ學界未知ノモノデアリ、而モ類緣菌中未ダ恐ラク有毒種ガ知ラレテ居ナイコトヨリシテ、甚ダ學術的興味ガ深イ次第デアル。同菌ハ小林氏ニヨレバ伊豆地方ニテ椎茸榾木上ニ生ズルト云ハレ、ソノ形態ハきくらげヤにかはたけノ或種ニ類似シ、誤食ノ虞レ充分ナル外觀ヲ呈シテ居ル。大方ノ御注意ヲ喚起シタイモノデアル。以下佐伯氏ノ手記ニヨリ、症狀ソノ他ヲ記ス。

「現症」昭和14年5月8日午前8時頃隣村上伊集院村入佐ヨリ南一家ニ漆中毒(俗稱ウルシマケ)ニテ苦悶シテ居ル故往診ヲ乞ハル。

父　甲(氏名略)70歲。　母　乙62歲。　子(男)丙17歲。(農業)

午前 9 時頃患家ニ着キシ時 3 人何レモ濡レ鼠ノ如ク 4 肢ヲ垂レ近クノ小川ヨリ歸宅ス。

「主訴」本早朝 (8 日) 息子丙氏ガ草刈ニ行キ漆ノ木ノ下ヲ通テ歸宅セシニ 4 肢先端及ビ頭部顔面頭部ニ痒痛ガアルノデ石鹼ニテ 4 肢ヲ洗ヒシニ、隣ニ是ヲ見テ居タル父母ニ又該石鹼液ガ飛ビ、其レヨリ 3 人共ニ同ジ訴ヲ見タリ。殊ニ息子丙氏ノミハ症狀惡化シ隣人ノ勸メニヨリ近クノ小川ニ入リ冷水ニ浸ツタト云フ。

「已往症」 健全ニシテ疾患無シ。

「症狀」 息丙氏ノミ脈膞 102, 時ニ 20 膞ニテ結代スレドモ心臟衰弱ヲ見ズ。然シ肢端紅痛症ノ如キ特有ノ症狀ヲ呈シ 4 肢ノ末端ニ腫脹潮紅、灼熱ヲ來ス。刺痛、裂痛、或ハ火ニ燒クガ如ク、痒痛ヨリモ寧ロ疼痛ノ爲反轉シテ苦悶ノ狀見ルニ堪エ難キモノノ如シ。余ニ向テ緩解法ヲ訴フ。殊ニ頭部ヲ自己ノ手ニテ叩クガ如シ。父母モ大體是ト大同小異ノ症狀ナルモ脈ノ結代ナシ。然シ何レモ胃腸症狀、腦症狀等ヲ認メズ (以上文献ヲ見ルニ西川義方博士菌中毒ノ診斷ト治療其九、からはつたけノ症狀ニ一致ス)。

「類症鑑別」 (1) 漆中毒: 患者ハ斯ク訴ヘレドモ漆疹ニ見ルガ如キ皮膚浸潤モナシ。又本人等ハ再三うるしニ觸レシモ未ダカツテ斯カル局所症狀ヲ呈セズト。(2) 食餌性中毒、例ヘバ蕁麻疹: 原因ニ相違アリ、(3) 藥品中毒: 發疹、症狀ヲ全然異ニシ又田舍ノ農夫ニ斯カル藥品ハ使用セザル事。

依テ試ミニ昨夜 (7 日) 及ビ本朝ニ何カ食膳ニ上セシモノナキヤヲ問ヒシニ、息子丙氏ハ昨日午後近クノ雜木林ニ薪ヲ採リニ行キシトコロ、くぬぎ茸 (俗稱なば) ヲ發見、是ヲ持參シテ 3 人共夕食膳ニ上セリト云フ。然シ同夜ハ何ノ訴モナカリシト。依テ實物ノ所在ヲ質シタルニ幸ニ一片ヲ得、土井氏ニ鑑定ヲ乞フ。

「經過」患者ハ約 2 里近クノ田舍ニシテ余ハタヾ一度診療セシノミニシテ翌日症狀サシテ變化無キ儘、同僚松山醫師ノ診療ヲ乞ヒタリシガ翌々日頃ヨリシテ漸次症狀ハ消退シ、幸ニ合併症モ起ラズ生命ニ事無キヲ得タリト云フ。

「標本」 無莖菌類ノ一種きくらげニ似テ、蓋ハ平滑、黑褐色、柔軟ナル性質ヲ有ス。味ハ一種辛烈ナリ。

最後ニ貴重ナル診療記並ニ標本ヲ寄セラレタル佐伯醫師並ニ土井氏ニ深謝スル。

本卷第四號採摭餘錄 (其三) 訂正

		誤	正
p. 226,	第 1 行.	An observation on	An observation of
p. 230,	第 3 行.	(第 6 圖)	(第 5 圖 1)
	第 14 行.	E	F
p. 233,	第 4 行.	膜組織	厚膜組織
	第 5 行.	走　間	走　向
p. 237,	第 5 行.	形態學	系統學